

第 59 回研究会・事例検討会の紹介

第 59 回研究会は、95 名の方が事例検討会に参加しました。グループリーダー主導のもと、15 のグループに分かれてオンラインでディスカッションを行いました。(参加人数の少ないグループは統合) 各グループで話し合ったテーマや参加者からの感想をご紹介します。

【テーマ】

- チームの倫理観の育成について - 経口摂取ができなくなった高齢者とその家族への支援を通して -
- 重症気管支喘息の自己管理を通して認知症患者の自己概念の再形成を促進した事例
- CNS として倫理委員会でのどのように役割を果たしていくか
- CNS 更新にあたっての事例報告をどのように記述していくのか
- サブスペシャリティ以外の疾患看護への相談にどのように対応していくのか
- 多職種カンファレンスの開催時機とその方法について
- CNS 実習を引き受ける際の支援の在り方について
- 若年の高次脳機能障害を有する方への在宅調整
- CNS として外来支援の部署に配属された、他の相談部署との役割のすみわけについて
- 慢性疾患にがんを併発する場合、リソースナースとの共同はどのように行うべきか
- クリニックで勤務する看護師のモチベーションのあげ方
- 病棟での在宅療養支援について
- 倫理コンサルテーションチームが効果的に機能する状態をどのような活動で証明すればよいか
- 2 型糖尿病等複数の慢性疾患をもち蜂窩織炎で入退院を繰り返す患者への継続的な療養支援について
- 組織の中で働く難しさ
- 難病を持つ人の支援について、訪問看護師との連携
- 患者の安心と生きる希望を支える ~人工呼吸器装着中の自殺企図のある患者へのケア~
- 看護専門外来や相談外来の開設やシステム構築について
- 医療機関と訪問看護との連携のあり方について検討する
- 倫理調整の役割を果たすための取り組みについて

【感想】

—事例提供者—

- 自分は焦っていたように思う。やらないといけないという意気込みのなか、励まされた。スタッフは、よくやってくれる人ばかりだと思うので、信頼して一緒にやっっていこうと思った。いろんな先輩とのつながりを大事にしていきたい。初めて事例を出して、明日から頑張ろうと思った。
- 自分の行ったケアについて承認、支持されて安心した。自信が持てた。

—参加者—

- 現在悩んでいることや共有したいこと、助言を得たいと思うことをディスカッションした。各自の実践内容の違い、病院なのか在宅なのかという活動の場の違い、CNSとしての経験の違いなど様々な視点から発言しあうことができた。それぞれ明日から取り組んでみようと思うヒントが得られたように思われる。
- 有意義な話し合いが出来た。
- メンバーの活動促進に影響を与えた（やれそうなこと、ヒントをもらえた）。
- 明日からまた頑張ろうという活力になっている。
- 自施設にCNSが一人だけであり、他のCNSとしての経験や考えに触れ、相談できるよい時間となった。
- 長い年月をかけて痛みを分け合いながら継続していくことが大切と思った。
- 悪くなっていく慢性病に関わっていく覚悟を再認識した。アウトカムを示しながら、患者を孤独にさせない。
- スタッフからやりたいと言ってもらえる取り組みが大切だと改めて認識した。
- 少人数の為、ほとんどの皆さんが発言できるので、グループは多いかも知れないが、6~7名で話し合った方が進行しやすいと思った。現在の形で良いと思う。少ないグループは合同でやれば良いと思う。ちょうど良い人数で自身のリフレクションの機会ともなり、大変有意義な時間となった。